

ART KISS LETTER

TITLE

段々降りてゆく

九州の地に根を張る7組の表現者

DATE

2021

3.27^土 / 6.13^日

開館時間 10:00-20:00
(観覧会入場は19:30まで)

休館日 火曜日
*ただし5月4日(火/祝)は開館し、
5月6日(木)は休館。



加藤笑平
《Neo New シン木》
2021年

Photo:
Shintaro Yamanaka(Qsyumi!)

「段々降りてゆく」展で巡る九州アーティストMAP

7組の出品作家の皆さんは、九州の各地で制作の傍らアートスペースを運営するなど、精力的に活動されています。ぜひイベントなどの際に、訪ねてみられてはいかがでしょうか？



山内光枝

福岡県糟屋郡在住



山内光枝「つれづれ」2018

山内さんは、話し上手で、聞き上手。インタビューをしている時も、とても丁寧にわかりやすい話し方をされるし、私たちの目を見て一生懸命聞いてくださるので、ちょっと照れました笑。きっと、作品をつくっている時も、そうやって相手の方と一つ一つ信頼関係を結んでいかれるんだろうなと思います。キラキラして芯のある、先輩にしたい人ランキング1位のアーティストさんです！(N.H.)

スタッフの
ここが推し！

GALLERY SOAP



HOTEL ASIA PROJECTのディレクションも行う宮川敬一が1997年から運営するアーティスト・ラン・スペース。国内外のアーティストの展覧会やノイズ・実験音楽等の音楽イベント、映画やビデオプログラムの上映会、レクチャーシリーズなどを開催している。

住所：福岡県北九州市小倉北区鍛冶町1-8-23 2F
電話：093-551-5522
<http://g-soap.jp> ※イベントにより営業時間が異なるためHP参照

スタッフの
ここが推し！

HOTEL ASIAを引っ張る宮川さんは、GALLERY SOAPのバー・カウンターに立つマスターでもあります。マスター・宮川からは、小倉のディープスポット情報や、アジア各地の葬式を見て回った旅のエピソードなど、他では聞けない話が聴けるかもしれません。またSOAPはさまざまな人々が行き交う場所。あなたの隣に座るのは、アーティストか、音楽家か、ストリッパーか、はたまたオソロシイ革命家か？(S.G.)

宮川敬一

motomoto



現在ベルリン在住の宮本華子が、故郷の荒尾市で周囲の人々を巻き込みながら運営するレジデンス・スペース。国内外の作家を招聘しながらネットワークを広げている。

住所：熊本県荒尾市
Instagram: motomoto_air_jp
※イベント等はSNSで告知

スタッフの
ここが推し！

年齢や出身地が近いこともあり、リラックスして話すことができました。作品のテーマである親子関係について聞いてみると、自分にとっても「あるある」と共感できるお話が多かったです。(本当はもっと重いものかもしれませんが…)。作品が佳境に入るとディズニーやジブリを聞いてパワーアップしているそう。明るくてとてもチャーミングな方でした！(N.M.)

宮本華子

アートスペース現実

畑直幸が運営する、別府駅高架下のアートスペース。商店街の空き店舗を活用し、時には隣の店舗まで展示が拡張する。精肉店や青果店に囲まれた普通の生活の延長に写真がある空間だ。

住所：大分県別府市駅前本町別府北高架商店街内
電話：なし
Facebook:「現実 genjitsu」
毎月第3土・日・月オープン

畑直幸



スタッフの
ここが推し！

畑さんの作品は、カラフルな写真のイメージがありましたが、会場には様々な試行錯誤を経て出来た作品が時系列で並んでいます。すごく計算されているようで、実は偶然性や感覚を重視されているそうです。都会的に見えて、ほとんどが大分の山あいにある自宅や庭で撮ったものさそう。アートと生活が自然になじんでいるのが魅力的でした！(S.M.)

加藤笑平スタジオ / 野母崎樺島製塩所



軍艦島を対岸に望む長崎市野母崎樺島町の元水産加工場をスタジオとして使用し、現在、塩炊き小屋「野母崎樺島製塩所」を建設中。作品制作の傍ら、随時イベントなどを行っている。

住所：長崎県長崎市野母崎樺島町1
Facebook:「加藤笑平」
※イベント等はfacebookにて告知

スタッフの
ここが推し！

加藤さんは、樺を愛用されていることからわかるように、ワイルドで独特の存在感があり、すごく芯が通った方でした。自作の塩や絵の具について語る時には、元素について語られていて、意外に理系…!? 作品には、これまでの人生で出会った人や風景の様々なエピソードが込められていて、まるで加藤さんの人生絵巻を見るようでした！(N.H.)

宮崎県綾町在住

すうひゃん。



スタッフの
ここが推し！

すうひゃん。さんは、さっぱりとして歯切れ良く、格好いいお母さんアーティストでした。依頼されて描くこともあり、その場合はモデルになるお子さんとは必ず1日一緒に遊んでみて、その上で感じをとらえているそうです。上のお子さんはもう高校生で、お料理も上手だそうで、お母さんの事をすごく考えているんだな…と思うとスタッフもすうひゃん。さんも、なぜか涙ウルウルのインタビューになってしまいました笑。(K.S.)

Gallery 傾く家



2011年よりオレクトロニカが主宰するギャラリー。オレクトロニカの作品や古道具の常設を中心に、企画展やライブなどを開催。またオレクトロニカの視点で選ぶ、生活に取り入れたいモノを扱う。

住所：大分県竹田市竹田2115-1
電話：090-6895-5986
<https://www.electronica.com>
※基本的に土日オープンだが、イベント等により営業時間が異なるため要連絡

スタッフの
ここが推し！

オレクトロニカのお二人にお会いして、すごく印象的だったのは「相棒」感。でもベタベタするわけではなく、独特の距離感で、おのおの好きな時にアトリエに行って制作し、作品やインスタレーションを作り上げていくそうです。長年一緒に仕事してきた芸人さんのように、お互いの呼吸や考えがわかることで、絶妙なコンビネーションを生み出しているのかなと思いました。(N.M.)

オレクトロニカ

ギャラリーIII
G3-Vol.139

本と人と作品の
空間を考える04
シーリングファン

会期：
2021年4月7日(水) - 6月6日(日)

数冊の本と写真など熊本市現代美術館の所蔵作品が展示されたギャラリーIII(展示室)、約6000冊の本と夜に天井の光の色が変化するジェームズ・タレルの作品《MILK RUN SKY 2002》を有するホームギャラリー(図書室)。
本と美術のある二つの空間全体に、宮内優里によるBGMが流れます。
BGM演奏：宮内優里(作曲家/音楽家)



井手宣通
記念
ギャラリー

あの時、何食べた？ —平成28年熊本地震「丸尾の食卓」アーカイブ展

会期：2021年4月7日(水) - 6月6日(日)

熊本地震のあった5年前、私たちはどんな食卓を囲んでいたでしょうか？本展は、2016年に当館で開催した、アートプロジェクト型の展覧会「丸尾の食卓」のアーカイブ展です。「丸尾の食卓」展は、天草の若手陶芸家・丸尾三兄弟(金澤佑哉・宏紀・尚宜)が、地震後、多くの家庭で器が割れたことをきっかけに企画したもので、参加者に1人1枚器をさしあげるかわりに、その人の食卓の写真を撮って送ってもらい、ギャラリー内に展示しました。熊本地震から5年を迎えるいま、当時送られてきた写真の中から約80点を改めて紹介します。当時の暮らしや、現在について思いをめぐらせてみる機会になれば幸いです。



熊本市現代美術館
Contemporary Art Museum, Kumamoto

ART KISS LETTER Vol. 98(2021年5月) [次号は7月発行予定]
編集：坂本顕子 佐々木玄太郎
印刷：シモダ印刷 発行：熊本市現代美術館 www.camk.jp
〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 Tel 096-278-7500



[来館者の皆さまへお願い] 新型コロナウイルスの感染拡大を防止し、美術館を安全にご利用いただくため、ご来館の際には手指消毒・咳エチケットのご協力をお願いいたします。また、発熱・咳・くしゃみ等の風邪の症状がある方は、ご来館をお控えください。